

第五回 キセラ川西 エコまち建築賞 選考結果及び講評



1. 選考対象

- ・令和2年4月1日から令和4年5月31日までに完了報告が提出された物件は「14件」でした。(注：令和3年度は対象物件数が規定を満たさなかったため、建築賞の選考を実施しませんでした)
- ・このうち、エコまち建築賞選考対象の条件※を満たす物件は「6件」でした。
※ラベリングの結果、低炭素・景観いずれも★3つ以上獲得、かつ、低炭素・景観どちらかで★4つ以上獲得
- ・選考対象の「6件」のうち、指定建築物（公共施設、または敷地面積3,000㎡以上）は「1件」（川西市立総合医療センター）で、指定建築物以外の一般建築物は「5件」でした。

2. 選考経過

- ・選考会を令和4年8月8日（月）午後2時～午後4時に、キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室C・Dで開催しました。
- ・現地視察の後、実施要領に基づき、5名の選考メンバーが採点を行い、それらの点数を合計、対象物件毎に総合点を算出しました。
- ・協議の結果、総合点の上位「3件」をエコまち建築賞受賞物件として選考しました。

3. 選考結果

第五回 エコまち建築賞受賞物件 3件

(1) 川西市立総合医療センター

用途：病院
建築主：川西市
設計者：清水建設株式会社一級建築士事務所
施工者：清水建設株式会社

(2) ユニハイムキセラ川西せせらぎ公園

用途：共同住宅
建築主：ヤマイチ・ユニハイムエステート株式会社
設計者：株式会社都市建一級建築士事務所
施工者：株式会社昭和工務店

(3) あい保育園キセラ川西

用途：保育園
建築主：株式会社アイグラン
設計者：尾上建築設計事務所
施工者：サンヨーホームズ株式会社

4. 講評

(1) 川西市立総合医療センター

本建築は、キセラ川西の西部に位置する病院であり、公共施設としてエコまち運用基準に基づく取り組みが求められました。

低炭素分野では、エネルギー消費量が著しく高い病院という用途でありながら、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）Aランクを取得され、開口部の大きい窓ガラスにLow-Eガラスを採用されるほか、太陽光発電設備、マイクロコージェネレーション、BEMS（ビルエネルギー管理システム）の導入等、エネルギー消費量削減のための多種多様なメニューを積極的に導入されました。

また、緑・景観分野においては、キセラ川西せせらぎ公園に隣接することを意識し、景観としての一体感が感じられるよう、公園の樹種や川西市の市の木（エドヒガン）を主体に、公園に面する形で多層的な緑化を施し、建物全体が緑に覆われた市民の医療環境となるような配慮がなされました。

また、40mを超える高層の建物の圧迫感を緩和するよう、上層部のセットバックに加え、バルコニーや屋上緑化をフロアごとに巡らせ、建物ボリュームを分節、緑が小高く延びる風景を創り、周辺の山並みの景観と調和するよう配慮がなされました。

その他、室内空間においても、キセラ川西のロゴマークやCIカラーをベースにした色彩の使用、サインにおける猪名川流域の植生のグラフィックの採用など、地域のブランド力向上を後押しするような配慮がなされました。

本建物で実現された数々の取り組みにより、地区の低炭素化や核となる景観づくりに大きく寄与した地区のシンボルとなる建築物となり、公園と一体となった地区の拠点を形作る、エコまち建築賞に相応しい物件として評価しました。

(2) ユニハイムキセラ川西せせらぎ公園

本建築は、キセラ川西の東部に位置する共同住宅であり、低炭素分野では、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）B+ランクの取得に加え、住棟、住戸毎それぞれで低炭素建築物の認定を取得、全住戸に家庭用燃料電池を導入、指導台数以上の駐輪台数を確保するなど、低炭素化に意欲的に取り組まれた結果、低炭素のラベリングで高評価を得ました。

緑・景観分野では、敷地外周部にバランスよく植栽を配置、多様な樹種の常緑・落葉樹とすることで、住民だけでなく地域の人々にも四季の彩りが感じられる植栽として整えられており、周辺からの見え方にも配慮したものとなっています。建物についても整った圧迫感の少ないまちなみとなるように表現され、エントランス周りもすっきりとした外観でまとめられました。

こうした一連の取り組みによって、共同住宅の中でも特に低炭素化に意欲的に取り組まれ、エコまち建築賞に相応しい物件として評価しました。

(3) あい保育園キセラ川西

本建築は、キセラ川西の北東部に位置する保育園であり、低炭素分野では、保育室は太陽光を利用したハイサイドライトを採用するとともに、屋上に5kWの太陽光パネルを配置、園児に常時発電量の数値を分かるように表示し、啓発する取り組みもなされています。外観の照明はすべてLED照明を採用、その他にも、各部の使用材料により省エネ化を図り、BEIm（モデル建物法による設計一次エネルギー消費量／基準一次エネルギー消費量）＝0.52となる高いレベルの低炭素化を実現されました。

緑・景観分野では、園庭に天然芝を敷地面積の約25%を占める割合で確保し、道路側の緑地には季節ごとに花の咲く樹種を植え季節の移り変わりを表現、駐車場にも一部芝を植えるなど積極的な緑化に取り組みられました。加えて、キセラ川西のロゴマークを建物出入口に採用されました。

保育園として、園児が安全で健やかに活動できる環境を確保しつつも、キセラ川西の目指す低炭素化・景観づくりに理解を示し、様々な工夫に意欲的に取り組み、とりわけ低炭素化に力を入れられた、エコまち建築賞に相応しい物件として評価しました。

今回受賞しなかった物件（レーベン川西 TIEAK RESIDENCE、シェノンキセラ川西、キセラ川西腎クリニック）は、残念ながら受賞物件には一歩及びみせんでしたが、これらの物件も一定の基準を満たした「高ラベリング物件」として評価し、引き続き、エネルギー消費量の削減や、緑の維持管理などの取り組みに期待します。

キセラ川西整備事業の終了とともに、キセラ川西エコまち建築賞は今回の5回目をもって最後となります。この間、地区内に11件の受賞物件、13件の高ラベリング物件を推薦することができ、いずれも、現在に至るまで地区の低炭素化・景観形成を先導する存在として定着してきたと感じます。改めて受賞者の方々、そしてその建物を使い続け魅力を維持されておられる方々に敬意を表す次第です。

おりしも、川西市では令和4年8月1日に2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す、ゼロカーボンシティの表明を行いました。この間積み重ねられてきた取り組みが模範となり、キセラ川西が低炭素・景観で先導し、市のゼロカーボンシティ化を牽引する素晴らしいまちとなるよう、住民・事業者・行政が建築後も取り組みを継続していくことを強く願います。

キセラ川西 エコまち建築賞 選考メンバー

学識経験者 (4名)	関西学院大学 名誉教授	加藤 晃規
	大阪大学大学院 工学研究科 教授	山中 俊夫
	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授	松村 暢彦
	大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授	武田 重昭
行政 (1名)	川西市土木部 部長	五島 孝裕